

SEINAN CHANTEURS

The 21st ANNUAL CONCERT

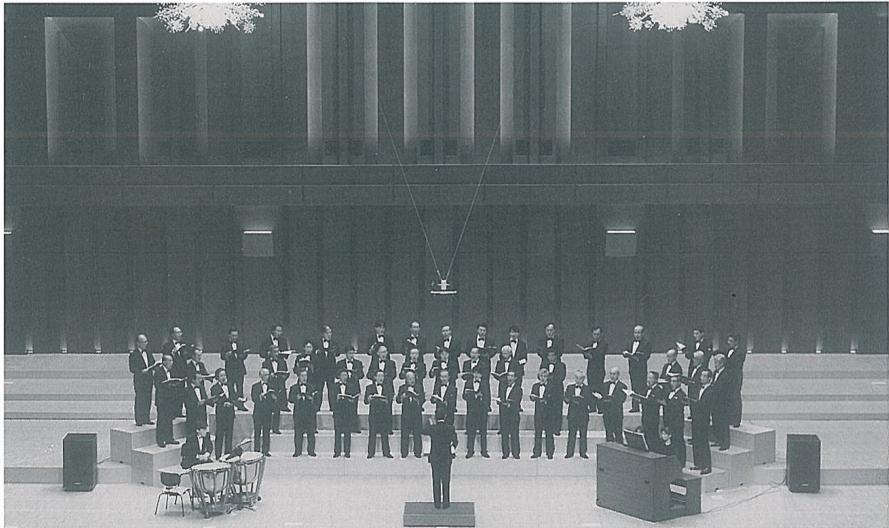
SINCE 1954



第21回 西南シャントゥール定期演奏会

賛助出演／西南学院グリークラブ

1998・11・23(月)
アクロス福岡シンフォニーホール



Hail, Seinan

Seinan, our bastion of faith,
Vivid dream of a bygone year,
Crown'd with honor love and truth,
'Be true to Christ' is our prayer.

Hail to our Alma Mater !
Lighthouse by the sea, radiant,
Gleams for her sons and daughters
With God's love, resplendent.

Ah, Seinan, school of wisdom,
Whose fair halls ring with laughter,
Glow with knowledge and freedom,
Symbols of Divine favor !

Behold ! her banners fly high,
O'er students of purpose true,
United to live or to die,
Her emblems e'er to keep pure.

ごあいさつ



徳永麟之助
西南シャントゥール会長



内海 敬三
西南シャントゥール
常任指揮者

今宵はシャントゥールの演奏会のために時間をさきご来聴頂き、団員一同感激いたしております。皆様の感性を満たし得るか保証の限りではありませんが、不況、リストラ、失業、保険金詐欺事件、少年犯罪など沈みきった昨今、一般の清涼剤として私どものハーモニーがお役に立てば、この上ない喜びです。ご承知のこととは思いますが、私どもシャントゥールの中には社会的に重要な立場の者も居たり、また企業を営んでいる者もいまして、その平均年齢は福岡に於ける合唱団の中で最高に達していると思います。その点で、男声合唱団として迫力不足もあることと自認しています。もっともっと若い力が欲しいのですが、中々若い団員が集まらず私どもの悩みです。それだけに団員も男声合唱の持つ特色を充分に発揮しようと努力を重ね今日に及んでおります。

団員一同多忙の中から暇を作ってよく出席し、曲そのものの興味やハーモニー作りに苦労しております。若い方に負けない様に日々の練習を重ねてまいりました。どうぞ最後までご静聴頂けば幸甚に存じます。

なお、私(90才)が平均年齢を高めているのですが、本年7月から9月まで約2ヶ月間健康を害し入院生活を余儀なくされ、ステージに立つ事に多少不安を感じますので、残念ながらごあいさつの失礼させて頂きます。

今年の五月、京都男声合唱団が来福、ジョイントコンサートを持ちました。指揮者の佐々木日出男氏の本業は真宗大谷派宝蓮寺の御住職で、練習場はお寺の本堂だそうです。この未曾有の不況で参加者は30人足らずでしたが、いい歳の男が会社を休み、よくぞ九州くんだりまで歌いにきたものだ、と感心させられました。皆意気盛んで、大いに歌い、大いに飲み、男同士の楽しい時を過ごすことができました。

残念ながら、不況は我々にも影響があるのか、今回の演奏会でステージにいるメンバーは例年になく少ないので、何とか今日の演奏会にこぎつけました。いい演奏ができればと願っています。

また、最終ステージの「兵士の合唱」は、昭和十九年(1944年)西南学院グリークラブの第九回定期演奏会でも最後に歌われた曲でした。伴奏は当時中学生の故福永陽一郎氏で、戦争末期、メンバーの多くはやがて戦争に、それで解散もやむなし、という厳しい状況でのことです。「永き戦いこそおさまりて、懐かしき我が故郷に返りきぬ…」と日本語で歌われ、演奏の後、「またみんなとこの曲が歌える日が来るのだろうか。」と万感胸に迫り、涙せずに済むかわなかったといいます。

今日「故郷で恋いや、友と語らう」ことは当たり前ですが、この「兵士の合唱」を最後に戦場に散り、二度と歌うことが出来なかった先輩の無念に思いを馳せるとき、私たちは許される限り歌い続けなければと思っています。

英語と日本語のバイリンガルはわが団員のなかにもいる。しかしドイツ語やフランス語となると多少堪能ではあってもバイリンガルと言える者はいない。大半は教養課程第二外国語初級をかじった程度だからまず白紙にちかい。ウムラウト、リエゾンなど不完全極まりない。そんなわれわれが身の程も弁えず英、独、仏語に挑戦する。英語は多少ましな顔をして歌っていても、18もの母音や黒なまりを正確に発音することはまずお手上げ。「西南は、英語に強い」はあくまでも風説に過ぎない。また、たとえネイティヴでも16分音符に長い3音節の単語を乗せることは相当困難なことだろう。われわれにはほとんど不可能。そんなふうだからネイティヴには聞いてもらいたくないと云うのが正直な気持ちだ。しかし歌うからには音の羅列だけではなく何かを聴衆に伝えなければならない。「その背後に思想なくして真の音楽はない」と云うショパンの言葉がすっかりと重い。限りなくジレンマに陥りながら今年も舞台上で苦闘します

団員一同

~~~~~ PROGRAM ~~~~

I 黒人靈歌 Afro-American Spirituals

指揮 内海 敬三  
ピアノ 瀬川 啓子

1. Shadrack Robert Mac Gimsey - Orrie Lee
2. Rock-A My Soul Don Regier
3. Ain'-a That Good News ! William L. Dawson
4. Steal Away William L. Dawson
5. Ev'ry Time I Feel the Spirit William L. Dawson

II 賛助出演 西南学院グリークラブ

男声合唱組曲『雪と花火』

作詩 北原白秋  
作曲 多田武彦  
指揮 小野大介

1. 片恋
2. 彼岸花
3. 芥子の葉
4. 花火

~~~~~ intermission ~~~~

III 男声合唱曲 「永訣の朝」

作詩 宮沢賢治
作曲 鈴木憲夫
指揮 内海敬三
ピアノ 瀬川 啓子

IV オペラ男声合唱曲

指揮 内海敬三
ピアノ 瀬川 啓子
鈴鹿亜紀子

1. Jäger Chor 狩人の合唱
"Der Freischütz" 「魔弾の射手」より
2. Chor der Gefangenen 囚人の合唱
"Fidelio" 「フィデリオ」より
3. Choeurs de Soldats 兵士の合唱
"Faust" 「ファウスト」より
4. Chor der Pilger 巡礼の合唱
"Tannhäuser" 「タンホイザー」より

Carl M. von Webber
Ludwig van Beethoven
Charles Gounod
Richard Wagner

I. 黒人靈歌 Afro-American Spirituals

Negroという英語は黒人の公民権運動のキング牧師の演説にも使われていますが、今日では不快語とされ、かわりに Afro-American もしくは African-American が使われています。希望のない過酷な奴隸という現実を生き続けてきた彼等が、明るくエネルギーあふれる歌を歌ったのは、天国での幸せを信じていたからでしょう。聖書の言葉や物語を単純なハーモニーと独特のリズム（シンコペーション）に乗せた黒人靈歌は、男声合唱には欠かせないレパートリーです。

- 1) Shadrack シャドラク
信心深いシャドラク、メシャク、アベド・ネゴの三兄弟が、ネブカドネツアル王のパアル（偶像）を揮むのを拒んだ。怒った王は三人を燃え盛る炉に入れたが、天使が護ってくれたので、髪の毛一本焼けなかったという旧約聖書の物語を愉快に歌ったものです。
- 2) Rock-a My Soul アブラハムの胸
イスラエルの偉大な祖先アブラハムの胸に抱かれて、魂が安らかに憩うように。ソロと合唱の楽しい掛け合いは、日本の労働歌の「よいとまけ」を思わせます。
- 3) Ain'a That Good News ! 良い知らせじゃないか
「よい知らせじゃないか、私は天国で王冠をかぶるのだ。この世の重荷を降ろしてイエス様の所へ行くんだ。」天国では幸せになれるのだ、という希望にあふれる者のバイタリティーを感じさせます。
- 4) Steal Away 遺れて行こう
「遙れて行こう、イエス様の所へ。もう、私はここに居たくない。ラッパが高らかに響く、その時主が救いに来られるのだ！そして罪人達は震えあがるのだ。」
来る日も、来る日も続く苦しい奴隸という絶望的な状況から逃れたいという、静かな、しかし深い、深い、血を吐くような祈りです。
- 5) Ev'ry Time I Feel the Spirit 聖靈の動きを感じる度に
「私の心に聖靈が動くのを感じる度に、私は神に祈るのです。」「ヨルダン川はすごく冷たい、それで体は冷えても、心は冷えることはない。」明るく、陽気な歌。



瀬川 啓子（ピアノ）

福岡教育大学音楽科卒業。

ピアノを江頭恵美子、福田伸光の各氏に師事。独唱・合唱の伴奏者として活躍している。
現在、西南学院大学文学部児童教育科助教授。

Shadrack

There was three chidren from the land of Isriel,
Shadrack ,Meshack, Abednego,
And they took a trip into the Babylon,
Shadrack, Meshack, Abednego,
Nebucudnezza was of King of Babylon
Shadrack, Meshack, Abednego,
He took a lot of gold and he made an idol
Shadrack, Meshack, Abednego.
And he told everybody "When you hear the music
of the cornet and the flute And of harp ! "
"You must fall down and worship the idol
Shadrack, Meshack, Abednego"
But the children of Isriel would not bow down,
Shadrack, Meshack, Abednego,
Couldn't fool them with a golden idol,
Shadrack, Meshack, Abednego,
Couldn't fool them with a golden idol"
Shadrack, Meshack, Abednego,
So the king put the children in the firey furnace
Shadrack, Meshack, Abednego,
Heaped on the coals and the red hot brimstone
Shadrack, Meshack, Abednego,
Seven times hotter. Hotter than it ought to be !
Shadrack, Meshack, Abednego.
Burnt up the soldiers the king had put there,
Shadrack, Meshack, Abednego.
But the Lawd sent an angel with snowy white wings,
Down in the middle of the furnace,
Talking to the children about the power of the gospel,
Shadrack, Meshack, Abednego.
Well, it couldn't even burn a hair on the head of
Shadrack, Meshack, Abednego,
Laughing and a talking while the fire was a jumping 'round,
Shadrack, Meshack, Abednego.
Nowole Nebucudnezza called . "Hey there ! "
When he saw the power of the Lord;
And they had a big time in the house of Babylon,
Shadrack, Meshack, Abednego.
Ah ! Ah ! Ah ! Abednego.

Ain'a That Good News !

I got a crown up in a the Kingdom,
Ain'a that good news !
I'm a going to lay down this worl',
Goin'a shoulder up uh my cross,
Goin'a take it home a to my Jesus,
Ain'a that good news, good news !
I got a harp up in a the Kingdom,
Ain'a that good news !
I'm going to lay down this worl',
Goin'a shoulder up uh my cross,
Goin'a take it home a to my Jesus,
Ain'a that good news, good news !
I got a robe up in a the Kingdom,
Ain'a that good news !
I'm going to lay down this worl',
Goin'a shoulder up uh my cross,
Goin'a take it home a to my Jesus,
Ain'a that good news, good news !
I got a Saviour up in a the Kingdom,
Ain'a that good news !
I'm going to lay down this worl',
Goin'a shoulder up uh my cross,
Goin'a take it home a to my Jesus,
Ain'a that good news, good news !

Steal Away

Steal away to Jesus; steal away home,
I ain't got long to stay here.
Steal away to Jesus; steal away home,
Green trees are bending, Poor sinner stands a trembl'ing;
The trumpet sounds with in a my soul,
I ain't got long to stay here.
Steal away to Jesus; Steal away home,
My Lord calls me, He calls me by the thunder;
The trumpet sounds with in a my soul,
I ain't got long to stay here.
Steal away to Jesus; Steal away home,

Rock-A My Soul

Rock-a my soul in the bossum of Abraham,
I may be weak, but Thou art strong.
I'm leaning on. I'm leaning on.
Rock-a my soul in the bossum of Abraham,
My God is glad. My sin set free.
I'm going home. I'm going home.
Rock-a my soul in the bossum of Abraham,

Ev'ry Time I Feel the Spirit

Ev'ry time I feel the Spirit, Moving in my heart, I will pray;
Up on the mountain my Lord spoke,
Out of His mouth came fire and smoke;
Looked all around me, It looked so fine,
'till I asked my Lord if all was mine.
Ev'ry time I feel the Spirit, Moving in my heart, I will pray;
Jordan's river is chilly an' cold,
It chills the body, but not the soul;
there ain't but one train upon this track,
It runs to heaven an' right back.
Ev'ry time I feel the Spirit, Moving in my heart, I will pray;
When the Spirit moves me in my heart, I'll pray;
Yes, Ev'ry time I feel the Spirit,
Moving in my heart, I will pray, Yes, I will pray.

「雪と花火」

北原白秋 作詩

(I) 片 恋
あかしやの金と赤とがちるぞえな
かはたれの秋の光にちるぞえな
片恋の薄着のねるのわがうれひ
曳船の水のほとりをゆくころを
やわらかな君が吐息のちるぞえな
あかしやの金と赤とがちるぞえな
あかしやの金と赤とがちるぞえな

〔明治四十二年十月〕
〔東京夜曲〕より

(II) 彼岸花
憎い男の心臓を
針で突かうとした女
それは何時かのたはむれ
昼夜のあとに
ハットして
きょうも驚くわが疲れ
憎い男の心臓を
針で突かうとした女
もしや素てたらきっとまた
なんのその葉が知るものぞ
わたしはわたし
芥子は芥子
なんのゆかりもないものを
ひとはひとゆえ身のはそる
芥子がちらうとちるまいと
なんのその身が知るものぞ
花火が消ゆる
薄紫の孔雀玉……
ぱっとしたれでちりかかる
銀と緑の孔雀玉……
ぱっとしたれでちりかかる
甜青の夜の薄あかり
ほんにゆかしい歌麿の
舟のけしきにちりかかる

(III) 芥子の葉
芥子は芥子ゆえもさびし
ひとが泣かうと泣くまいと
なんのその葉が知るものぞ
ひとはひとゆえ身のはそる
芥子がちらうとちるまいと
なんのその身が知るものぞ
花火が消ゆる
薄紫の孔雀玉……
ぱっとしたれでちりかかる
銀と緑の孔雀玉……
ぱっとしたれでちりかかる
甜青の夜の薄あかり
ほんにゆかしい歌麿の
舟のけしきにちりかかる

〔明治四十五年五月〕
〔銀座の雨〕より

(I) 片 恋

あかしやの金と赤とがちるぞえな
かはたれの秋の光にちるぞえな
片恋の薄着のねるのわがうれひ
曳船の水のほとりをゆくころを
やわらかな君が吐息のちるぞえな
あかしやの金と赤とがちるぞえな
あかしやの金と赤とがちるぞえな

(II) 彼岸花

憎い男の心臓を
針で突かうとした女
それは何時かのたはむれ
昼夜のあとに
ハットして
きょうも驚くわが疲れ
憎い男の心臓を
針で突かうとした女
もしや素てたらきっとまた
なんのその葉が知るものぞ
わたしはわたし
芥子は芥子
なんのゆかりもないものを
ひとはひとゆえ身のはそる
芥子がちらうとちるまいと
なんのその身が知るものぞ
花火が消ゆる
薄紫の孔雀玉……
ぱっとしたれでちりかかる
銀と緑の孔雀玉……
ぱっとしたれでちりかかる
甜青の夜の薄あかり
ほんにゆかしい歌麿の
舟のけしきにちりかかる

(IV) 花 火

花火があがる
銀と緑の孔雀玉……
ぱっとしたれでちりかかる
甜青の夜の薄あかり
ほんにゆかしい歌麿の
舟のけしきにちりかかる

花火が消ゆる
薄紫の孔雀玉……
ぱっとしたれでちりかかる
銀と緑の孔雀玉……
ぱっとしたれでちりかかる
甜青の夜の薄あかり
ほんにゆかしい歌麿の
舟のけしきにちりかかる

花火があがる
薄紫の孔雀玉……
ぱっとしたれでちりかかる
銀と緑の孔雀玉……
ぱっとしたれでちりかかる
甜青の夜の薄あかり
ほんにゆかしい歌麿の
舟のけしきにちりかかる

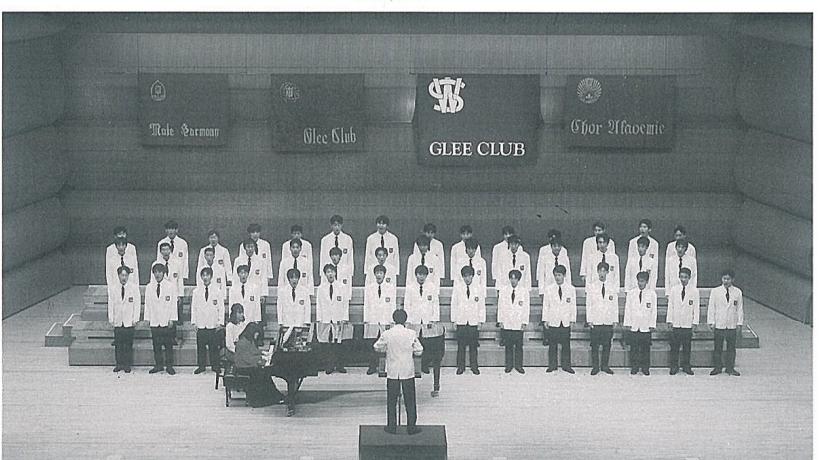
花火があがる
薄紫の孔雀玉……
ぱっとしたれでちりかかる
銀と緑の孔雀玉……
ぱっとしたれでちりかかる
甜青の夜の薄あかり
ほんにゆかしい歌麿の
舟のけしきにちりかかる

〔明治四十四年十一月〕
〔雪と花火〕より

〔明治四十五年五月〕
〔銀座の雨〕より

〔明治四十四年六月〕
〔雪と花火〕より

賛助出演／西南学院グリークラブ



II. 男声合唱組曲『雪と花火』

白秋における都市的空間

北原白秋の第三詩集『東京景物詩及其他』(後に『雪と花火』に改題)は、「官能感覚解放運動」を旗印としていたパンの会といふ親睦会を開催していた時期に刊行されたものである。この集まりは、白秋や木下空太郎といった青年文学者たちと白井柏亭、倉田白羊らの画家たちとが交流して開いた芸術的サロンのことである。また、江戸情調と異国情調とを交錯させた耽美的な文学運動として位置付けられる一方で、当時の東京の現実を非常に客観的に観察していたとも言われている。さて、当時の東京における都市化現象は、急速に文明を開化させて行く帝都と旧来までの江戸とが混在する空間であったと考えられる。故郷である水郷柳川の牧歌的空间に馴染んでいた白秋は、この都市的空间ではおそらく異邦人のごとく彷徨していたであろう。彼らにとって、そこは西洋的でもあり、またエキゾチックな陶酔にひたる空間でもあった。そして、あるときはその空间の違和を感じすぎて、ひたすら孤独感や密閉感へと駆り立てられることもあったかもしれない。

詩集『雪と花火』(『東京景物詩及其他』に一章を増補して改題したもの)

『東京景物詩及其他』に収められている詩篇は、パンの会が最も盛大であった頃に、詩想の湧くにまかれて書かれたものである。白秋自身、「この時代ほど制作慾の爆発を來した事は私自身にも珍しい」と記し、「しかも種々雑多の詩風が一時に芽を出し、前後相交錯して、軒々としてついに俗謡の新体を創るに至った」と述べている。よって、この『雪と花火』は、新俗謡体の小唄のような軽味とわかりやすさを特徴としたものや、東京に江戸の情調を加味した印象風の景物詩が多く収められている。

「片恋」

白秋自身〈わが詩風に一大革命を惹き起こしたー私の後來の新俗謡体はすべてこの一篇に萌芽して、広く且つ複雑に進展していったのである〉と語っている。かつて隅田川の東岸に位置した曳舟運河と故郷柳川の運河をオーバーラップさせている。秋の訪れにより感じられる冷ややかさや、「散る」という言葉から恋の終わりを予感させている。

「彼岸花」

この頃、白秋は隣家の人妻松下俊子と恋愛に陥っており、現実には許されない行為への葛藤がにじみでいる。ゾッとするような歌詩のあとには、午後の三時の鐘によって違いびきの時間が近づいている現実的な描写になっている。

「芥子の葉」

芥子の花びらは、大きく咲いてすぐに散ってしまう。芥子の花を見ていると、人の恋愛にも始まりがあり、また終わりがやってくるということに気付かされるようである。

「花火」

パンの会時代の白秋に詩風が色濃く表れたものであろう。特に、この中で「帽子」、「アイスクリーム」という開拓的な言葉を江戸という枠組みの中で用いることによって、江戸情調をさらに際立たせようとしている。また、美しく散っていく花火を、恋のはかなさに見なしている。

III. 永訣の朝

24才で亡くなった妹トシの死を悼む挽歌で、宮沢賢治27才の作品。「松の針」「無声慟哭」が同時に書かれている。

鈴木氏は最初、混声合唱として作曲したが、次第に多くの人の共感を呼ぶところとなり、女声合唱、更に男声合唱にも編曲された。

詩の本来の自然なリズムを生かすため3拍子や4拍子の外に1拍子、5拍子が多用されている。またトシの言葉が方言で書かれているのも特徴の一であるが、複雑に変わるテンポとともに詩の重層性を表現している。

(あめゆじゅとてちてけんじゅ)「賢治兄さん、みぞれとてきて下さい。」不吉な空模様を割って出てくるこの言葉は幼児語である。間隔をおいて繰り返されるが、アカペラ(無伴奏)で歌われ、幼い頃の記憶を呼び戻すかのように、他とはっきり異なる雰囲気をだしている。

(Ora Orade Shotori Egmo)「私は、私で一人で逝く。」

兄と同じく法華経の信奉者で「生あるものの幸いは「この世」に実現する」という信仰は、父親の浄土真宗の「死後の淨土」を否定するものであった。トシの死に際し賢治の悩みもまさにそこにあった。にも拘らず彼女は「一人で逝く」と言い放つのである。この張りつめた決意はフォルテシモで表され、更に同じ言葉の繰り返しは、ピアニッシモで歌われるが、彼女の不安と躊躇を表したものともとれる。

(…こんどはこたにわりやのごとばかりでくるしまなよにうまれでくる)

「今度は私のことばかりで苦しまないように生まれてくる」

トシは女学生の頃、音楽教師との恋愛が新聞に公にされ、当時のこととて世間の好奇と中傷、加えてその教師の背信に彼女は深く傷つき、故郷を追われるよう上京して、女子大に入るが、周囲の女性の生き方にも馴染むことが出来なかった。そして、ついに病に倒れるという生涯である。

この臨終の言葉は、ピアノのアルページョを伴奏に単旋律で静かに歌われ、薄幸のトシのけなげな思いが、しみとおるように伝わってくる。

「ふた揃の雪が兜卒（とそつ）の天の食に変わって、おまえとみんなに聖い資糧もたらすことを、私の全ての幸いをかけて願う。」というフレーズは「全ての人の幸いがあってこそ自分の幸いがある。」という彼の信仰で、彼の捧げるふた揃の雪が「個」としてのトシのものではなく「自分の幸いを賭けて‘全ての人’の為に願う……」という崇高な祈りとなつて終わる。

*「兜卒の天の食」とは、死者が浄土に向かう途中に与えられる祝福の食事

けふのうちに
とほくへいつてしまふわたくしのいもうと
みぞれがふつておもてはへんにあかるいのだ
註1 (あめゆじゅとてちてけんじゅ)
うすあかくいっそく陰惨な雲から
みぞれはびちょびちょふつてくる
(あめゆじゅとてちてけんじゅ)
青い草薙のもやうのついた
これらふたづのかけた陶板に
おまへがたべるあめゆきをとらうとして
わたくしはまがつたつぱうだまのやうに
このくらいみぞれのなかに飛びだした
(あめゆじゅとてちてけんじゅ)
蒼鉛いろの暗い雲から
みぞれはびちょびちょ沈んでくる
あとし子
死ぬといふいまごろになつて
わたくしをいつしやうあかるくするために
こんなさっぱりした雪のひとわんを
おまへはわたくしにたのんだのだ
おまへはどうわたくしのけなげないもうとよ
わたくしもまつすぐにすんていくから
(あめゆじゅとてちてけんじゅ)
はげしいはげしい熱やあべきのあひだから
おまへはわたくしにたのんだのだ
銀河や太陽 気圧などとよばれたせかいの
そらからおちた雪のさいこのひとわんを……

…ふたきのみかげせきざいに
みぞれはさびしくたまつて
わたくしはそのうへにあぶなくたち
雪と水とのまつしろな二相系をたもち
すきとほるつめたい雲にみちた
このつややかな松のえだから
わたくしのやさしいもうとの
さいごのたべものをもらつていかつ
わたくしちがいっしょにそだつてきたあひだ
わたくしちがいっしょにそだつてきたあひだ
わたくしはそのうへにあぶなくたち
もうけふおまへはわかれてしまう
註2 (Ora Ora de shitori Egmo)
ほんとうにけふおまへはわかれてしまう
ああのとさされた病室の
くらいびやうぶやかやのなかに
やさしくあをじろく燃えてゐる
わたくしのけなげないもうとよ
この雪はどこをえらばうにも
あんまりどこもまつしるなのだ
あんなおそろいみだれたそらから
このうつくしい雪がきたのだ
註3 (うまれてくるたて
こんどはこたにわりやのことばかりで
くるしまなよにうまれでくる)
おまへがたべるこのふたわんのゆきに
わたくしはいまころからいのゆ
どうかこれが兜卒の天の食に變つて
やがておまへとみんなに
聖い資糧をもたらすことを
わたくしのすべてのさいのはひをかけてねがふ

註1 あめゆきとてきてください。
註2 わたしはわたしでひとりでいきます。
註3 まだひとつにうまれてくるときは
こんなにじぶんのことばかりで

IV. オペラ男声合唱

狩人の合唱 Jäger Chor 「魔弾の射手 “Der Freischütz”」より

若い猟師マックスは森林監督官の娘アガーテと結婚し、森林監督官の職を継ぎたいと思うが、それには射撃大会に優勝しなければならない。不安な気持でいる時、悪魔の手先カスバルにそそのかされ、ついに「魔弾」(悪魔の必中の7発の弾丸で、最後の一発は悪魔の望むものにあたるというものの)を手にいれる。試合の当日、領主臨席の射撃大会の大詠、高らかに歌われるのがこの歌である。

正統的ドイツ・ロマン派オペラの発端となった記念碑的作品で、ワーグナーに至る国民歌劇の道を開いた。作曲者自身の指揮による初演は、序曲演奏が終わるや、万雷の拍手が鳴り止まず、止むえず序曲を繰り返さざるを得なかったという。当時ドイツでは外国のオペラ中心で、ドイツ人自らの手になるこのオペラは、物語も、登場人物も、その背景もドイツのものということで、ドイツ国民の比類のない賞賛を受けた。しかし、この華々しい成功はドイツの外に及ぶものとはならなかった。

狩人の喜びに比べられるものがこの世にあるだろうか
どんな人生の盃がこれほど豊かに沸きたつだろうか
角笛の響きを聞きながら野原に身を横たえ
池を渡って鹿を追う
これこそ王侯の喜び 男子の本懐
体は鍛えられ 食事に興を添える時
森や岩山がこだまして 我らを包む時
なみなみと注がれた高杯はさらなる自由と喜びに鳴り響く
ヨホ トトラララ……
ダイアナは夜の闇を明るくする術を知り
そのかけは涼しく 盛もまたさわやか
貪欲な狼や猪たおすこと
これぞ王侯の喜び 男子の本懐

囚人の合唱 Chor der Gefangenen 「フィデリオ “Fidelio”」より

囚われた政治犯の夫を救い出そうと妻のレオノーレは、男装してフィデリオの名で監獄の所長ロッコに雇われる。すぐに彼女はロッコの信頼を得る。王の誕生日、彼女の勧めで囚人達は暗い地下室から中庭に出してもらえる。一時の解放の喜びに彼等が歌うのがこの曲で、やがて来る終幕の解放の喜びの前兆を示す歌となる。典型的な「救出オペラ」。

「人間解放」という高い理想を具現したヴェートーベンの唯一のオペラで、作曲者の精神が明瞭に刻まれた金塔であるとされる。ベルリンの壁ができた頃、東ドイツで上演されたが、この合唱の後、聴衆総立ちで送られる拍手は、しばし鳴り止まなかったといいう。

おお何という喜び 自由な大気を吸えるとは
息をつくのだ 自由になるのだ
おお なんという喜び ここにだけ ここにだけ命がある
牢獄は墓場だ ここにだけ ここにだけ命がある
我々は神の助けを固く信じよう
我々は神の助けに信頼を置こう
希望がそっとささやく 自由になるのだ 安らぎを見い出すのだ
おお 天よ！ 救いよ！ 何という幸せ！
おお 自由よ！ おまえはまた戻ってくるのか
静かに 声が高いぞ つづしめ
聞かれているのだ 見られているのだ
そうだ しづかに！ しづかに！



鈴鹿 亜紀子 (ピアノ)

福岡教育大学音楽科卒業。
内山信、吉田真理の各氏に師事。現在、西南学院大学児童教育学科非常勤講師。
ヤマハ音楽教育システム講師。福岡合唱協会、王子スウイングバード、グリーンハーモニー ピアニスト。

兵士の合唱 Chœur des Soldats 「ファウスト “Faust”」より

老いたわが身を嘆くファウストは、悪魔メフィストフェレスに魂と引き替えに青春を買い戻す。マルガレーテは恋人のジイベルの花束より、ファウストが送った悪魔の宝石に惑わされ、ファウストになびいてしまう。第4幕、ファウストに捨てられ身ごもった彼女は罪の許しを乞うため教会にゆくが、悪魔があらわれ、「歓樂の日々は終り、おまえの魂は地獄に落ちる」と告げる。その時ラッパの響きとともに聞こえてくるのが凱旋する「兵士の合唱」である。文豪ゲーテによる詩劇のオペラ化で、グノーの最高傑作といわれる。

戦い終わって故郷に帰る
友よさらば 武器捨てよう
母や兄弟はもう涙にくれることはない!
戦い終わって親兄弟に会えるのだ!
戦争は終わった もう武器はいらない!

家に帰り皆と語らう歓び
勝利の歌を皆と語ろう
先祖が語り継いだ戦士の心意氣!
われら無敵の軍 誇りある勇士!
祖国の為に戦い 死ぬことも恐れず
われら敵にたちむかう
誇りある戦士の心意氣!
われら無敵の勇士

戦い終わって我らは故郷に帰る
勝利の日 平和はついに訪れた!
故郷に帰り 恋人と語り合う
戦さを思ひだし 友達とともに語り明かそう!
さあ帰ろう 故郷に帰ろう

巡礼の合唱 Chor der Pilger 「タンホイザー “Tannhäuser”」より

正確には「タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦」で関連のない二つの伝説「歌合戦」と「タンホイザー」をワーグナーが合わせたもの。

ミンネジンガー(中世の吟遊詩人)タンホイザーは恋人がいるにも拘らず、愛の女神ヴェヌスの虜になり快楽に溺れる。歌合戦は始まり、騎士ヴォルフランが愛の理想を歌う。しかし、タンホイザーが快楽を讃え、禁断のヴェーネスベルクを行ったことを告げたので、騎士達は怒り、剣をもって彼にせまるが、領主はタンホイザーにローマへ巡礼に行き、教皇の赦しを受けるように命ずる。第3幕、巡礼達が恩赦を得た喜びとともに歌いながら戻ってくる。しかし、そこにはタンホイザーの姿はない。

パリ初演の際、このオペラはスキヤンダルを起こすが詩人ボードレールが弁護、以後のフランス文壇、音楽界はワーグナー中毒患者だらけになったそうである。

故郷よ 喜びもてわれは汝を見る
優しき草原にうれしく挨拶を送る
み旨に従い巡礼を終えし今
旅の杖に安らぎを与えん

懲悔と償罪により
わが心掛けし主の許しを得たり
わが懲悔に主は恩寵を与えたもう
わが歌は主を讃え鳴り響く
懲悔の救いを与えられし者こそ
いつの日か天国の安らぎを与えられん
地獄も死も忍るに足らず
さればわれ命の限り神を讃えん
ハレルヤ！

~~~~~ Members (出演者のみ) ~~~~

| Top Tenor    | Second Tenor | Baritone     | Bass         |
|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 乙藤 成美 (S.29) | 的野 恒一 (S.28) | 林 照樹 (S.24)  | 下川 勝史 (S.26) |
| 宮地 基嗣 (S.29) | 福井 敦 (S.31)  | 内海 敏三 (S.29) | 豊田佳日子 (S.28) |
| 武立 真一 (S.30) | 馬頭 経明 (S.34) | 和田 正義 (S.36) | 木道 昇 (S.29)  |
| 高木 正志 (S.34) | 野辺 和馬 (S.34) | 石川 和義 (S.41) | 田中 義信 (S.30) |
| 出口 幸一 (S.38) | 波多江 忠 (S.35) | 古賀 正義 (S.42) | 井形 宣英 (S.30) |
| 中尾 武史 (S.38) | 徳永 和彦 (S.36) | 森 博彦 (S.44)  | 鶴 喜廣 (S.32)  |
| 山元 一憲 (S.45) | 佐藤 宗一 (S.40) | 松尾 淳郎 (S.45) | 松枝 保匡 (S.34) |
| 山口 聰 (S.60)  | 黒江 量二 (S.40) | 高川 弘幸 (S.45) | 夏秋 稔昭 (S.41) |
| 諸熊 敏明 (H.8)  | 石松 茂 (S.44)  | 佐藤 棍也 (S.45) | 小泉 慶 (現役4年)  |
|              | 瀧田 敏博 (S.46) | 轟木 保弘 (現役4年) |              |
|              | 波左間 実 (S.46) | 佐野 将史 (現役3年) | OB担当         |
| 亀川 正則 (S.54) |              |              |              |
| 龜井 幹登 (H.9)  |              |              |              |



■毎日新聞に「10年ひと昔」と云う小さな欄がある。10年前の今日の出来事を紹介しているが先端技術の開発、情報システムの革命が社会の変化を速め「10年を大昔」にしたようにわたしには思える。そしてその大昔にわたしはシャントゥールのマネージャーを引き受けた。マイナーからメイジャーに団を変身させたいと云う思いは熱かった。50人のステージで団のエールを持ち、オリジナル委嘱作品をつくる東京リーダーフェルや東海メールクワイアのような合唱団に成長したい。これがわたしの目標だった。おおたかの団員の協力を得てこの目標は6年目に達成され自分に課した使命も終わった。後の4年間は惰性で余分なものだった。当時の張り詰めた気持ちは薄らいでいった。「硬直した組織は腐る」と言ったのは今は無き土光敏夫さんだが今はどん心一新の大切さと必要性を痛感している時はない。思えば多くの合唱団体とも交流ができ、小野田、下闇、長崎、対馬、壱岐など県外演奏も実現できた。内外の方々に助けられ充実した時だった。いま平成の大不況がメンバーをまた団から遠ざけている。ご覧のようにステージ上は40人を切った。しかしこれは時節が変われば回復することで彼らが戻ってきて来るのも遠い未来ではあるまい。残念なことだが徳永麟之助会長が今年は休まれた。卒寿(90才)を迎られたので「どうしょうか?」と電話で問われたとき「是非出てください」とは即座に言えなかった。案の定2ヶ月間健康を害し入院されていたとのこと、しかし今は健康を回復されており、次の機会には出演されるに違いない。10年前徳永会長の傘寿(80才)の記念演奏会がメリパルクで行われ、長崎ではハウステンボスの起工式が行われたのであった。

■今回の第21回定期演奏会に際しましては伴奏の瀬川啓子、鈴鹿亜紀子、伴奏編曲の三村恵章、練習ピアノの黒江亜子の皆さんにご協力を賜りました。ありがとうございました。また貴重な祝日に私共のためにお運びいただきました会場のみなさま今年もありがとうございました。団員一同心より感謝申し上げますと同時に今後とも西南シャントゥールにご支援を賜りますようお願い申し上げます。

マネージャー 佐藤宗一  
事務局 〒814-0123 城南区長尾2-22-56 TEL 092-531-1315 FAX 092-531-1316

